



Since 1937

# CEFニュース

No.155 2024. 春号

このように、この小さい者たちのひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではありません。マタイ 18:14

## 「隠さず伝えよ」



国際CEF会長

チョウ  
趙 エレミヤ

今日は、詩篇 78 篇の言葉を通して、次世代に対する神の心を分かち合いたいと思います。この詩篇は独特な方法で書かれています。通常、詩篇は神を賛美したり、神に愚痴をこぼしたり、神に祈ったりする形で書かれますが、詩篇 78 篇は教訓を教える説教の形をしています。

この詩篇を書いたアサフは、レビの子ゲルシヨンの子孫で、ダビデ王の時代に神殿で歌を作り、聖歌隊を率いる聖歌隊長でした。しかし今、彼は民衆、祭司、聖職者の前に立ち、歌ではなく説教を聞くように呼びかけています。彼が人々の前に立ってこのように説教するのは、簡単な決断ではなかったに違いありません。何が彼をこの決断に駆り立てたのでしょうか？ それは、彼の発見したことが心を揺さぶり、魂を燃え上がらせたので人々に伝えないわけにはいかなかったからです。

彼は、過去のイスラエルの民が反逆の道を歩み、神が与えた約束の地で異邦人に抑圧され、乗っ取られた理由を見つけたのです。それは、彼らが神を捨て、神の言葉に従わず、次の世代に神の戒めと掟を伝え、従わせる責任を忘れたからでした。そしてこれが何度も繰り返されていました。それを知ったアサフは、心に大きな重荷を感じ、立場や肩書きに関係なく、神の心を語らざるを得ませんでした。

### 1 隠さず、次の世代に伝える

詩篇 78:4 「それを私たちは息子たちに隠さず後の時代に語り上げよう。主の誉れを主が行われた力ある奇しいみわざを。」

彼は問題の解決策として、断固とした代替案を示しています。

アサフは「隠さず告げる (We will)」と言いました。

「隠さず告げるべき (We should)」とは言っていません。つまり、誰かがすでに決断したということです。この時実際に誰が決断したのかは分かりませんが、これは次の世代に対する神の決断 (御心) だと思えます。アサフは、次の世代に神と神の言葉について教えるということに毅然とした態度でいます。彼が選んだのは次の世代だったのです。老木を変えることはできませんが、若く柔らかい枝を変えることはできます。そこに未来への希望があります。既存の世代を変えるのではなく、次の世代を教えるのです。それ以外に希望はないとアサフは叫びます。

子どもたちに神の御言葉を教えることは、彼らの運命を変え、彼らの家族、社会、国家の運命をも変えます。だから私たちは全てを投げ打ってでもこれをしなければなりません。神の御心は天で行われるように地でも行われます。そう、神は CEF を、そしてあなたや私を、次世代に対する神の意志を実現するために召されたのです。

### 2 私たちが伝えなければならないメッセージ

T・W・トッド博士の脳の成長の比較によると、子供の脳は生まれた時点で大人の 4 分の 1、1 歳半で大人の 2 分の 1、6 歳で大人の 10 分の 9 になるそうです。子どもの脳の 90% が 6 歳までに完成するとすれば、この時期に何を教えるかが、その子の残りの人生を形作ることとなります。(箴言 22:6) 次の世代に本当に伝えるべき、彼らの一生に影響を与えるメッセージとは何でしょうか。それは主イエス・キリストの福音です。「御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。」(コロサイ 1:13-14) パウロは「私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です」(ローマ 1:16) と言いました。また、主は私たちに「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」(マルコ 16:15) と命じられました。

(二面に続きます)

主は、この福音を地の果てまで伝えるために、私たちに聖霊を約束し、送って下さいました。この福音こそ、私たちが行って、あらゆる国、あらゆる民族、あらゆる言語のすべての子どもたちに伝えるべきメッセージなのです。

※この記事は 2024 年 2 月 9 日に CEF 国際本部で行われた CPC (クリスマス・パーティー・クラブ) 祝賀会でのエレミヤ会長のメッセージを翻訳、抜粋したものです。前半後半に分けて掲載し、後半は次回の CEF ニュースに続きます。

## CPC (クリスマスパーティークラブ) の報告

2022 年に続き、2023 年もクリスマス・パーティー・クラブ (CPC) が世界中で実施されました。今回は「Joy to the World—世界に喜びを—」という教材を用いて、イザヤ書から救い主の預言(誕生、生涯、十字架、再臨)とその成就、そしてこれらのすべてが、私たちに真の喜びを与えるものであることを子どもたちに教えました。2023 年の CPC を通して、日本では 97 ヶ所で 648 人の子どもに福音が伝えられ、185 人が救われました。

### 山口、沖縄の報告

2023 年の CPC は沖縄と山口の 3 カ所で行いました。最初は沖縄の児童公園で、学校帰りの子どもたちが集まってくれました。沖縄の祈りの友の姉妹達 3 人と祈ってきた初めての公園伝道です。約 30 人の子どもたちが参加し、賑やかな、わちゃわちゃした雰囲気が始まりました。お話はイザヤの預言からでしたが、3 つめのシンボル、釘はイエス様の十字架でした。すると、今までのガヤガヤした雰囲気から、急にみんなが真顔になり、お話に聞き入りました。そしてほとんど全員が招きに答え、一緒に祈りました。子どもたちはとても喜んでくれたのですが、プレゼントのお菓子を配っていると小学校の先生が注意に来られました。知らない人から食べ物を受け取ってはいけないとのことで、そのようなことは初めての経験でした。地域性があるのかも…と、これからは注意をしなければと思いました。子どもたちが、「次はいつ？」と聞いてくれてチャレンジをいただきました。2 回目は、山口県柳井市の児童公園です。とても寒い日だったので、いつも GNC をしている公園近くの私たちの教会で行いました。以前 GNC に来ていた子どもが中学生になり、友だちと一緒に来会。中学生が 7 名、また学校前チラシ配布から小学生 6 名が参加してくれました。賛美も復習ゲームも盛り上がり、お話は真剣に聞いてくれました。招きに中学生が手を上げましたが、後に残るのが恥ずかしくて、カウンセリングが出来なかったの

か残念でした。最後は、以前 GNC をしていた地域の公園で、久し振りの子ども会でした。チラシ配布から小学生 6 名が参加してくれました。賛美も復習ゲームも盛り上がり、お話は真剣に聞いてくれました。招きに中学生が手を上げましたが、後に残るのが恥ずかしくて、カウンセリングが出来なかったのが残念でした。最後は、以前 GNC をしていた地域の公園で、久し振りの子ども会でした。チラシ配布から新しい子どもが 9 人、中学生が 2 人参加してくれました。初めての子どものうち 5 人がイエス様を信じました。どの場所でも、まだまだ福音を聞いたことがない子どもが、多くいることを改めて思われ、出て行って伝えることの大切さを教えられました。CPC は教材がすべてセットになっているので、チームでするときも共通理解があり使いやすと思います。



### 各地のお証と報告

- レッソンの一部を使用しました。特に賛美は喜び、大人も一緒に大きな賛美となりました。
- 毎週日曜日 15 時からこの公園で日曜学校をされており、この日はいつも来ている 3 人が参加してくれました。このクリスマス会で、その内の 1 人が既に信じていることが確認できました。他の 2 人はまだ信じていませんが、今回 CPC の学びに参加した子どもが司会進行をしたことは良い刺激になっている様子でした。今年のクリスマス会は特に、既に信じている教会の子ども達の成長の場になりました。CPC の教材や学びに参加させてもらえたことに心から感謝しています。年明け 1 月に、教会でオーストラリアの YWAM チームとウィンタースクールをすることが急遽決まり、続けてこの 3 人の子ども達やその周りの方々に神様の恵みのお働きが力強く広がっていくことを期待しているところです。ハレルヤ!!
- マジックパズルを使用。内容は以前にも「字のない本」で聞いているものでもあったが、興味をもち聞き入った。自分でも使用したい! という子がいて、話ししながら使えるように、一緒に確認しながら練習した。迎えに来たお母さんに披露していた(話は殆ど助けてもらいながら)。良い機会だった。

- 教会学校の子どもたちとそのお友達でのクリスマス会が 10:30~15:30 まで行われ、そのうちの午前中の時間を CPC に使わせて頂きました。クリスチャンホームの子どもたちが多かったので、とてもスムーズにお話を進められました。新しい子どもはクリスマスのお話は初めてだったようですが、クリスマスの本当の意味とイエスキューサマは神さまであること、神さまの愛、罪、十字架の罪の贖いと救いについてお話することができて感謝でした。CPC の後はみんなでお昼、ケーキ作り、S 先生によるゲーム、お芝居、お話ととても盛りだくさんのクリスマス会でした。子どもたちもとても喜んでいました。
- グループで公園で遊んでいる最中に声をかけたので、まだ遊びたい子もいる中、「10分ぐらいなら、お話を聞いてもいいよ」と言われ、長くならないように時間が気になったり、グループが散らばったりするので、みんなに聞こえるように、声を張り上げたり、自分自身が落ち着いて話せなかった。招きにに応じて皆が祈ったが、他の子が祈っているの、声を合わせている子もいた。祈りの後「あなたはもう神様の子なんだよ」と、もっとしっかり念押し(?)ができれば良かった。クリスマスが罪からの救い主イエスキューサマ・キリストの誕生をお祝いする日だと初めて知って「へえ!」と驚いていた子どもたちが、イエスキューサマを忘れずにいて欲しいと願っている。
- 教会学校に来ているお友だちと地域の子どもたちの割合がほぼ同じ 43 名のお友だちと教会のメンバーとともにイエスキューサマの誕生をお祝いしました。聖書人物ビンゴとクリスマスカード作りでお楽しみを行い、Joy To The Word! で福音を伝えました。時間的に長くなったと感じましたが、みなさんじっと聞いていました。2 年生と 4 年生の男の子が応答し、カウンセリングを受け主を信じ受け入れました。素晴らしい主をほめたたえます!!
- ピアノ教室に来ている小学校 1 年~3 年生で CPC をすることができました。昨年行ったクリスマス会に来て下さったお子さんは 3 名でしたが、今年は新しく 3 名が加えられました。クリスマスのお話をまったく初めて聞くお友達はクリスマスはサンタさんのお誕生日だと思っていました。本当のクリスマスの意味とイエスキューサマは神さまであることを伝えることができ感謝でした。
- 12/3、6、9、20、22、24 日に CPC をしました。それぞれ、2~4 人の子どもたちが集まり、楽しい一時を過ごしました。神さまがいつも備えてくださっていることがよくわかりました。
- 教会の牧師が「世界に喜びを」を使ってメッセージしてくださって感謝でした。が、「招き」が書かれているにもかかわらず、はっきりと招きを出しませんでした。対象が低学年という事もあって、少し難しかったです。反省会では、もう少しストーリーをふくらませると良かったかもしれないという意見が出ました。大人の参加者が 13 名と多かったの、そのためには有益でした。
- 寒いし、帰る時間を気にしている子どもたちを前に「Joy To the World」をできるだけ簡潔に話すのが難しかった。初めて福音を聞く子どもたちにとっては、不思議な話を聞くような表情だった。それでも招きには応じて素直に祈った。「また来るからね」と声をかけて別れた。
- 初めての場所で伝道する予定でしたが、冬休みに入り、学童クラスが始まって、小学校の子ども達はほぼ全員学童クラスに行っていました。事前の調査が必要だったと痛感しました。でも、学校前のチラシ配布のために校長先生を訪問し、つながりが持てて感謝でした。来年につなげます。



- ボランティアの T さんの娘さん(ノンクリスチャン)も参加してくださり、又、昨年救われた中学生の弟も参加して救われました。とても感謝な時間でした! 主は素晴らしいです。
- 世界に喜びをのレッスンを使用。教会学校の生徒たち対象。前週に降誕劇をしたこともあり、とても関心を持って学んでもらえた。賛美も気に入った様子で、何度も繰り返し賛美した。
- サッカー、バドミントン、中当てドッジボールに興じている子どもたちのひと休み時、遊びはじめ、帰り際に声を掛け、お話をしています。
- 人数は少なかったのですが、集会のあと、仕事から帰ってきた親に、子どもたちがフラッシュカードを見せながら、聞いた話を伝えたそうです。その時の子どもたちの輝いた嬉しそうな顔は、救われた証だったと、家庭提供者たちが語っていました。

(四面に続きます)

CPCの証の続き

- 以前にも話を聞いたことがある男子4名は途中で何度も茶化したり、自分が知ってる知識を披露したりしながら聞いていた。招きに応じて皆が声を揃えて私の後について祈ったが、ふざけている子もいて、どこまで真剣に祈っていたのかわからなかった。2名の女の子の内、一人は唇のピアスをしていて、寂しそうな目が気になったが、招きに応じて祈った。学校はどこか聞いたら、直ぐに答えられず、もう一人の女の子が「この子は不登校やから…」と話してくれた。イエス様に愛されていることを忘れずにいて欲しい。
- CEFの学びに参加させていただいた子ども達が積極的に働いてくれたことに感動しました。救われた子がおらず(元々信じていた)、規模も小さなクリスマス会でしたが、神さまのお働きが色々なところに感じられ、とても感謝なクリスマス会になりました!!
- 初めてCS主催で、積極的なアウトリーチを行いました。新しい子は来なかったけれど、アウトリーチをしようと思った事が感謝です。



2024年は、イエスさまが光であることに焦点を当て、福音を伝えるCPC教材を出版計画中です。また、CPCの実演を含むCPCセミナー(旧：クリスマス準備会)も秋ごろから各地で開催予定です。

CEFの証—工藤知恵子



長年 CEF の東京支部で仕えた工藤知恵子は2024年3月末をもってスタッフを引退します。

スタッフとして最後の奉仕となる朝、デポジション箇所はIIサムエル 7:18「【神】、主よ、私は何者でしょうか。私の家はいったい何なのでしょうか。あなたが私をここまで導いてくださったとは」だった。本当に誰から見ても小さい者を「召された方は真実な方なので、きっとそのようにして下さいます」のおことばどうり、「慈しみと恵みが追ってくる日々」でした。CEFに関わって丁度40年が経ち振り返ると、申命記 29:5「四十年の間、あなたがたが身に着けている上着はすり切れず、その履き物もすり切れなかった」。主は生きておられ、多くの方の祈りに支えられて今日に至りましたことを心から感謝申し上げます。

「占領すべき地は非常に沢山残っている。」主とともにさらに沖に漕ぎ出したいと思います。

(工藤知恵子)

いつも日本 CEF へのお祈りとご支援、ご協力ありがとうございます。今年から祈りの友は隔月、CEF ニュースは年2回発行となります。

住所変更や発送の停止、また郵送からメールマガジンへの変更等はメール、電話、FAX、またはQRコードを読み取ってご連絡ください。



2024年の世界祈禱日は11月6日(水)です

👩👧👦👨👧👦 会計報告 尊い献金を心から感謝いたします 👩👧👦👨👧👦

献金 (23年9月24年-2月)	収入 (9-2月)	支出 (9-2月)
9月 1,232,330	献金 5,891,263	人件費 4,850,681
10月 744,650	謝礼 90,000	運営・管理費 1,980,521
11月 582,891	教材売上 225,837	什一献金 511,757
12月 2,020,597		
1月 724,790		
2月 586,005		
合計 5,891,263	合計 6,207,100	合計 7,342,959

CEF(児童福音伝道協会)は、福音を聞かずにいる子どもたちをキリストに導き、霊的成長を助け、福音的教会に結びつけるためにキリストのからだなる教会に仕える組織で、諸教会および主にある兄弟の祈りと献金により支えられ、奉仕しています。

発行日/2024年4月1日 発行/日本児童福音伝道協会 〒311-3434 茨城県小美玉市栗又四ヶ 2421-6  
 No.155/2024 春号 Tel (0299)28-2031 Fax (0299)28-2028 振替 00160-1-59313  
 Email japancef@cef.or.jp 株式会社 http://www.cefjapan.com